

すみだ景観フォーラム会報 ~ 第4号 ~

発行元(すみだ景観フォーラム事務局)
 墨田区都市計画部都市計画課
 墨田区吾妻橋1丁目23番20号
 電話:03-5608-6266 / FAX:03-5608-6409
 メール:toshikeikaku@city.sumida.lg.jp
 <会員数:151名(平成24年3月末現在)>

平成23年度は、座談会を行いました！

墨田の中央部に634メートル、世界一の高さを誇る電波塔、東京スカイツリーが立ち上がった今、すみだの景観は大きく変わりました。そこで、残すべき墨田を景観(風景)の中から探し、新しい墨田に“すみだらしさ”を根付かせていかなばなりません。

フォーラム第一部では、昨年度行ったまち歩きを通して発見した“残したいすみだの景観モデル案”をフォーラム実行委員が発表しました。第二部では、墨田区内で昔ながらの建物を今に活かし、地域の活性化にひと役買っているの方々によるパネルディスカッションを行い、残したいすみだの景観について意見交換を行いました。

みんなで発掘！『残したい・伝えたい・創りたい すみだの風景』プロジェクト2012

「残したいすみだの景観～激論！伝えます、すみだの生き方～」

開催日時：平成24年3月4日(日)午後2:00～午後4:00

会場：ユートリヤ(生涯学習センター)本館2階 マスターホール

参加者：61名

内容：第1部：「理想のすみだ景観モデル案」発表

発表者：景観フォーラム実行委員

第2部：パネルディスカッション

【コーディネーター】

土田 寛(東京電機大学准教授)

【パネラー】

岩本 寛(長屋で英語塾)

永井 都也子(社会福祉法人賛育会)

青木 威明(爬虫類館分館)

中西 道也(爬虫類館分館)

鈴木 俊雄(鈴木興産株式会社)

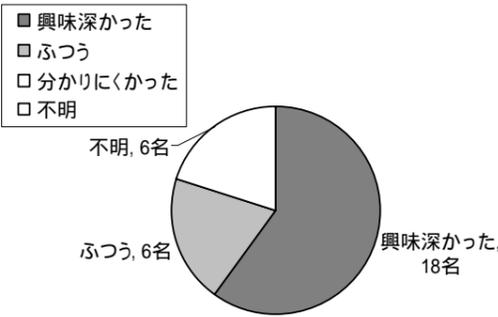
岡本 博(景観フォーラム実行委員)

『すみだ景観フォーラム』とは

区民のみなさんが、すみだの景観について意見交換・共通認識をもつためのきっかけの場です！どなたでも参加可能ですのでご希望の方は事務局までご連絡ください。

参加者アンケート結果

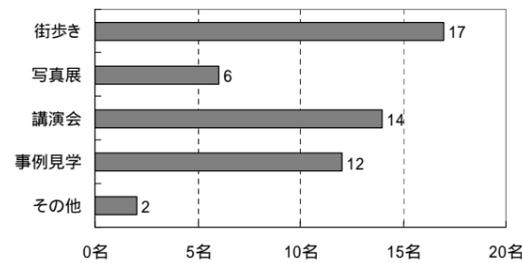
1 景観フォーラムの内容について



フォーラム内容についての感想 モデル案について

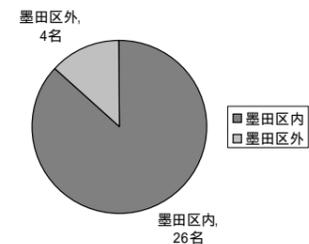
- ・景観という観点からウォーキングのルートをもっと周知すべきでは。
- ・本所地区には両国も含めるべき。
- パネルディスカッションについて**
- ・すみだらしさの発掘のために(魅力を探するために)墨田区外の人々のコメントが貴重であったと思う。“活気・ふれあい・懐かしさ”を誇れる街であり続けたいと思います。

2 今後参加したい活動について

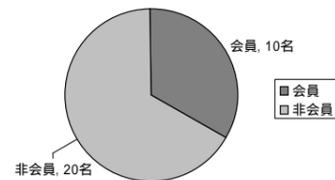


- ・両国・緑町地区等もコースに入れて欲しい！
- ・他所から引っ越してきましたので、何でも知りたいのです。
- ・新・旧の融合が難しいのかも？
- ・歩き、自分の目で見たい。今も昔も物を大切に、みんなで守りたい。
- ・自分の撮った写真で区の紹介HPを作る。
- ・景観の本質が見えない？
- ・討論会、意見交換会など住民の意見を発する場。
- ・なんでも出ます。
- ・自主的に地域は探索しております。

3 お住まい



4 すみだフォーラム会員



実行委員の声

実行委員のひとりとして参加させていただきました。地域の多くの方々にご参加いただいたこと感謝しています。ありがとうございます。第4回で大きく変わったことは参加されたみなさんからの感想でしょうか？_あたたかいご配慮の言葉だけでなく「もっと議論をしたかった。」「時間が足りない、議論以前でおわっている。」等厳しいご意見も多く頂きました。今回の企画はみなさんと議論をしたいという事で、いままでは違い会場を平場にしていって円形スタイルに設置しました。白熱の議論を夢みましたが、実際には議論の前段で時間切れという状況で、みなさんを不完全燃焼にしまいました。このままではいけない！では是非、この続きを試みたい。本格的な議論(激論)を実現したいと願っています。

巨大タワーが完成し、展望台からの景色は墨田を裸にしています。一望の元、良きにつけ悪きにつけ丸見えです。改めて考えさせられました。はたして景観は誰のものか？観る人のもの、住む人のもの、いえいえ両方？何れにしても日々景色(景観・風景)は変わっています。知らず知らずにならなくても仕方ないのか？それとも住まい手の想いを実現すべき！なのか？_なれば守るべきものもあるう~等など、それぞれのご意見をいただきたい。是非次回の激論！奮ってご参加下さい。

実行委員メンバー：安藤 平・伊丹 和夫・伊藤 善彦・大野 祐子・大森 千里・岡本 博・笠貫 昇・金谷 直政・小池 和史・佐原 滋元・高橋 輝世・半沢 真一・野本 郁榮・細川 勝也・渡会 順久



第1部 理想のすみだ景観モデル案発表



私たち景観フォーラムでは、急速に変わりつつあるすみだの景観について考えてきました。すみだらしい「残したい景観」を、昨年度行ったまち歩きを通して3地区(本所地区・京島地区・向島地区)から探し出し、残したい部分をキーワードに置き換え、「残したい景観」がもつエッセンスを探しました。

残したい景観

本所地区 「江戸時代からの伝統と緑と水辺のある街並み」



今回強く思ったのは、街歩きした際に移動するその道、水辺、それら自体が今も残る本所の歴史と伝統なのだということです。

洪水で流され、震災や空襲で焦土となったこの地ですが、今もくっきり残るのは江戸の都市計画で造られた碁盤の目です。今も古い地図や切絵図で合わせることが出来ます。特に河川、運河の形状は見事に残っています。この碁盤の目を花や木々で際立たせることが出来れば、街は輝いてくるのではないのでしょうか。今回の本所のテーマ「江戸時代からの伝統と緑と水辺のある街並み」が、これからの街のテーマの様にも見えてきます。

京島地区 「緑・ふれあい・歩き易い・ノスタルジー」



「残したいすみだの景観」を探しながら京島のまち歩きをしてから1年半程が過ぎました。京島は、曲がりくねった道、昔ながらの木造の家並、多くの緑を感じる等の特徴あるまちでした。歩きながら写真に収めた、大きな木、曳舟湯、等の残したい景観は、再開発、建て替え等により失われ変化しつつあります。気が付くとどこにでもある特徴の無いまちになってしまいそうです。これからは「残す」ための行動が必要なのではと思います。

向島地区 「墨堤・歴史・夢・ロマン街道 心の景観」



墨堤沿墨田区の北の端から墨田区役所まで約4km 位に平安時代創建の木母寺、多聞寺があり、時代を感じる山門があります。街道を南に下ると永井荷風の世界があり、旧玉の井があります。緑豊かな文化・文政の頃に造園された百花園があり、その近辺には明治の文豪・幸田路伴の蝸牛庵跡、路地に入ると戦後の遊郭地・鳩の街が、まだその面影を残しています。花街の一角に、三代将軍家光公の命名した長命寺があり、桜もち店に正岡子規が逗留していました。弘福寺は勝海舟、森鴎外の縁の寺であります。古き時代の中につれづれなるままに散策し、思い馳せながら心の中に画く景観も又、一考かと。

第2部 パネルディスカッション

土田先生 「スローラーニングのイメージとは?」

岩本さん 「自分が勉強したいことを自分のペースでやるのが大切。またここで勉強したいと思える空間が、自分自身は長屋でした。時間的な“ゆっくり”というよりは“時間が過ぎることを忘れられる雰囲気”というイメージです。」



土田先生 「地域活性化のビジネスモデルとして、スカイツリーのプラスとマイナスはコミュニティビジネスと関係ありますか?」

中西さん 「下町のような古い街並みが残るところは、コミュニティビジネスとリンクする点と異なる点の両方があります。谷中の場合、人気が出てきて外から来る人が増えています。また、古い建物の保存運動も盛んです。保存していこうとしている古い建物の賃料は高く、外から来る人の資本となることが多い。その場合、住んでいる人(地元の人)のものになりません。」

土田先生 「BUNKANさんのように食べる場所・アーティストを育てる場所から、鈴木興産さんのような劇場で発展させていくといった、ある種のコラボレーションの可能性についてご示唆いただきたいのですが。」

鈴木さん 「墨田区は芸術を発信する場がありません。鈴木興産は大横川親水公園と地続きなので、鈴木興産の倉庫を、階段を上って気軽に入っていけるようなフランクな場にしたい。」

土田先生 「高齢者の居場所として、何がいいのでしょうか。」



永井さん 「“居心地の良くなる場所作りをしたい”という思いから長屋と出会い、はなみずきホームをつくりました。部屋を探したときに、外の光や風が部屋の中に入るといふのを重点に置きました。施設の中はバリアフリーであるが、長屋の中はバリアフルとなっています。したがって、部屋の中に段差があるので、自分だけでは移動が難しい方もいる。そのような方は、視線のいくところを、自分の場所とします。視線からその方が今やりたいことが伝わってきます。長屋の生活で見つけたものを施設に反映していこうと思います。」

土田先生 「今日、いろんな意見を伺って、地域や景観に対する意見を持つことがわかりました。欧米と日本の建築都市環境の大きな違いは、永遠のものではないということ。人の生活感覚や仲間意識が発展すると、産業や芸術がソフトとハードの関係を、建築レベル・都市レベルで作っていきけるような取り組みに、この景観という視点が大きく係っているというのが確認できたと思います。このフォーラムを通じて、新しい何かが生まれてくれれば嬉しいです。」

会場からの質疑・応答

「第一部のモデル案発表で、京島の木がなくなるという話ですが、その木はどこかへ移植されるのか、それとも完全になくなってしまうのか。その木を利用して何か作れないのでしょうか。」

土田先生 「建築の世界では、樹木は寿命のあるものと考えられている。京島の木のように、長い年月を生き抜いたものを別の場所に植え替えると、だいたいダメになってしまう。そのため、その木を利用して何かを作るというほうが現実味がある。」

「両国もスカイツリーに関連した地域に開発していただきたい。そして地域の商店にお金を落としたい。また、安田庭園は今後どうなるのか。」

土田先生 「今後の景観フォーラムの題材にさせていただきたい。」

